

令和4年度 まちひとしごと東部地域会議

静岡県東部の鮭鱒養殖業の現状と展望、政策評価について

富士養鱒漁業協同組合 代表理事組合長 平林 馨

2023/1/13



自己紹介



平林 馨

Kaoru Hirabayashi

■代表略歴

1990年(平成2年)生まれ(33歳)

富士宮生まれ、神奈川県育ち

中央大学大学院戦略経営研究科戦略経営専攻修了
(経営修士 MBA)

■経歴

【20代】

- ・食品商社(食品営業)
- ・事業再生コンサルティング(中小企業の事業再生)
- ・外資系コンサルティング(投資・リスク管理制度構築)

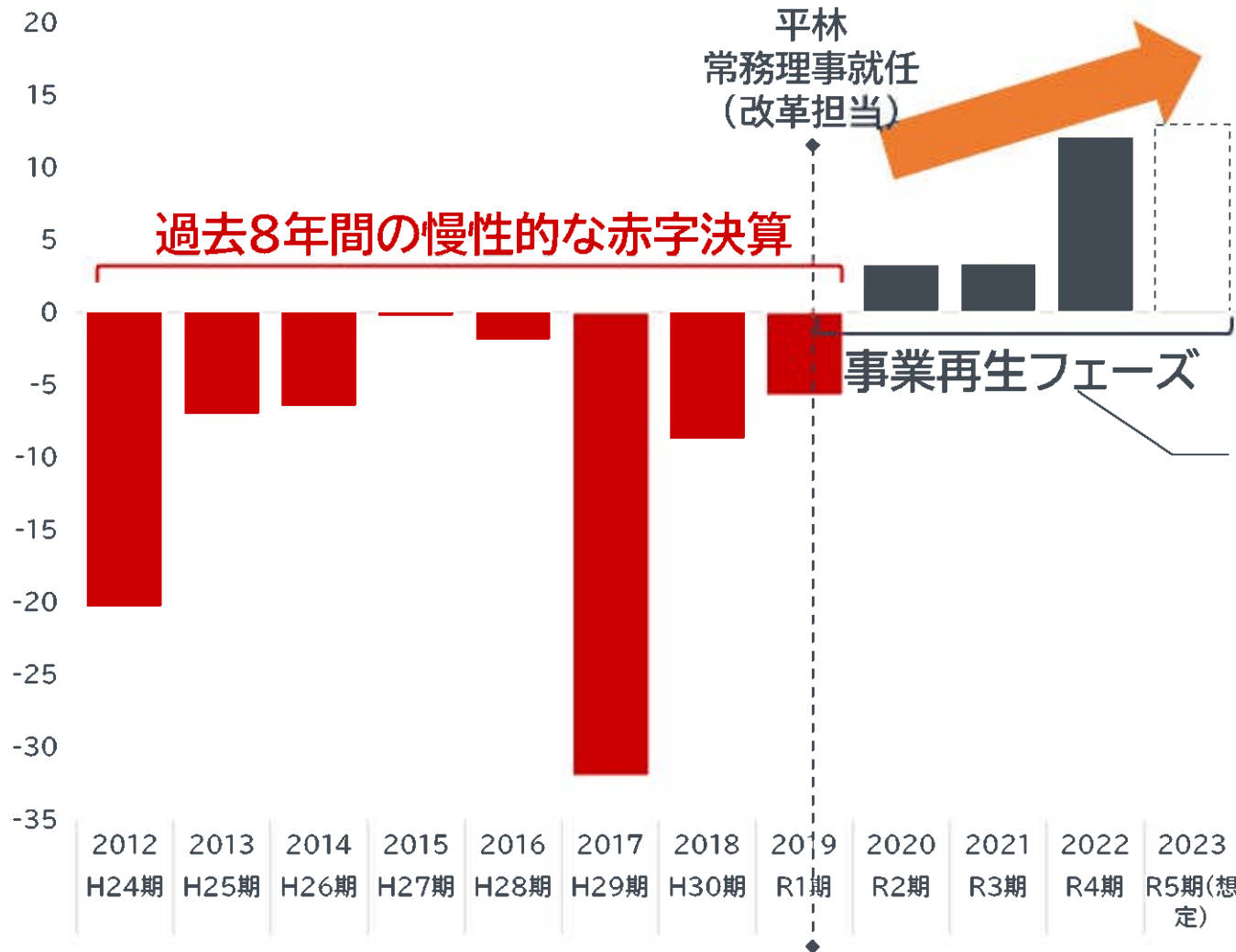
【静岡】

- 2019/7～ (有)柴崎養鱒場(ニジマス養殖)承継
- 2019/7～22/6 富士養鱒漁協 常務理事就任
- 2020/11～ (株)ストラウト(海水陸上養殖)設立
- 2022/7～ 富士養鱒漁協 組合長就任

富士養鱒漁協の事業再生実績

経営危機にあった富士養鱒漁協の収益回復させた実績を持つ。

富士養鱒漁協の当期剰余金(当期純利益)の推移(百万円)



具体的施策

■財務内容強化

- ・リストラクチャリング
- ・修繕投資の優先順位付・実行
- ・生産者からの買取価格値上

■漁協内ケイパビリティ強化

- ・オペレーション見直し
(HACCP導入・鮮度向上等)
- ・新規開拓・営業メソッドの確立
- ・人材採用・育成/教育の強化

養鱒業とは 1/3

静岡県は生産量日本一だが、淡水ニジマス養殖業(養鱒業)は全国的に斜陽産業である。



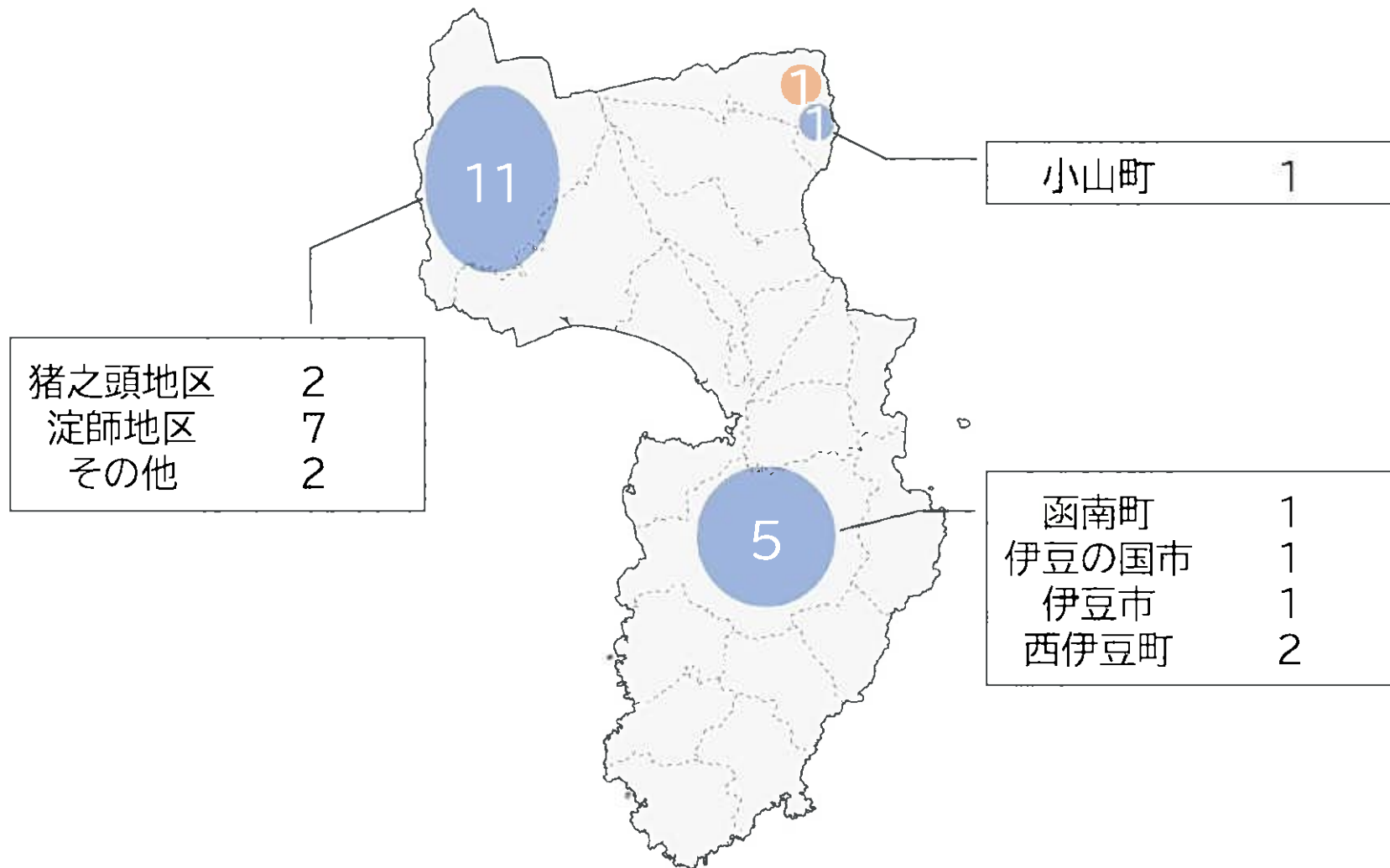
養鱒場の風景
(静岡県富士宮市淀師地区)



主要生産物である淡水ニジマス
上(2年)、中(1年半)、下(1年)

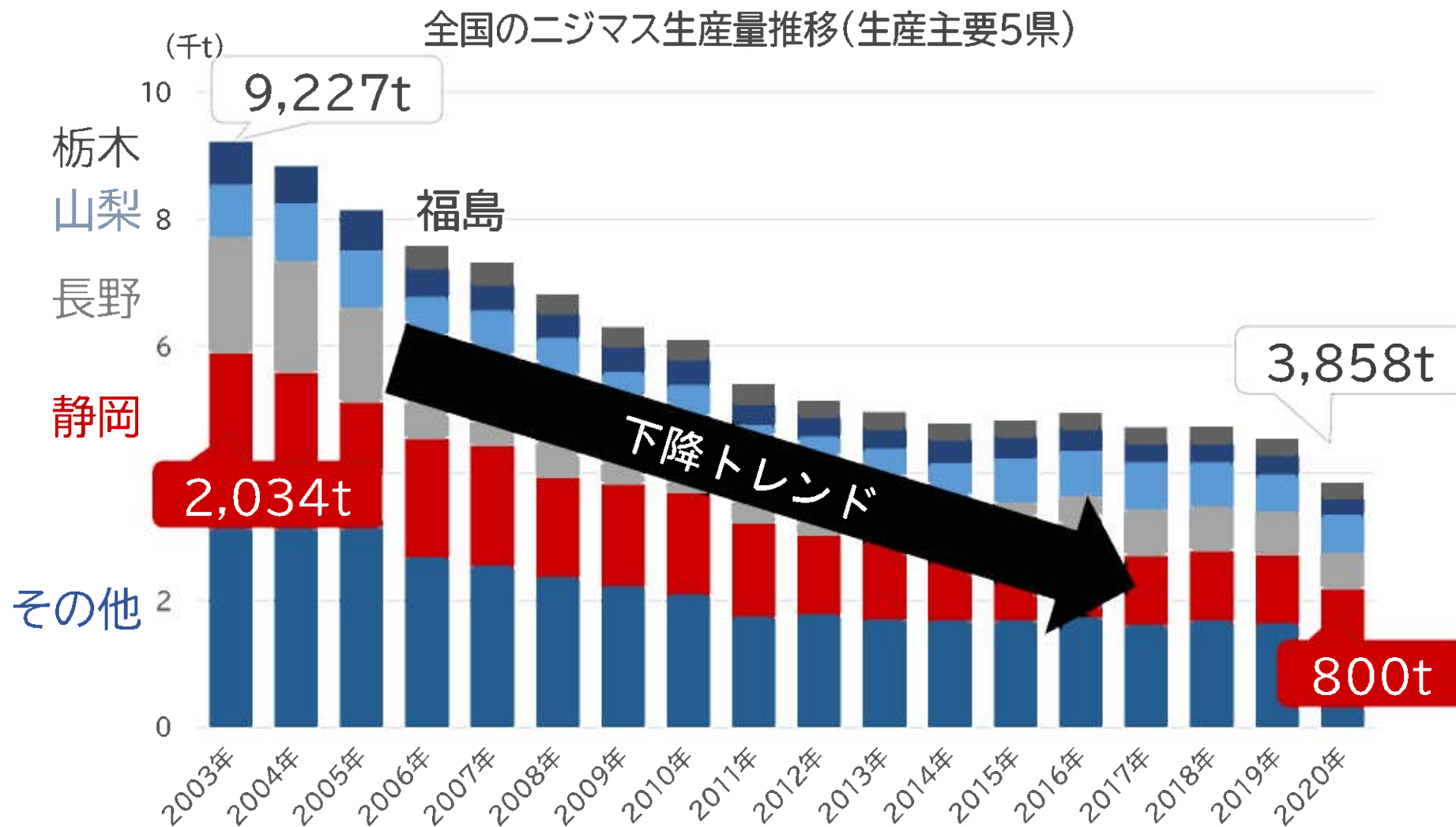
養鱒業とは 3/3

東部地域では、富士宮市に11件、小山町に1件、伊豆地域に4件の組合員が存在する。
加えて、新たに小山町にノルウェー資本のサーモン陸上養殖場が完成する。



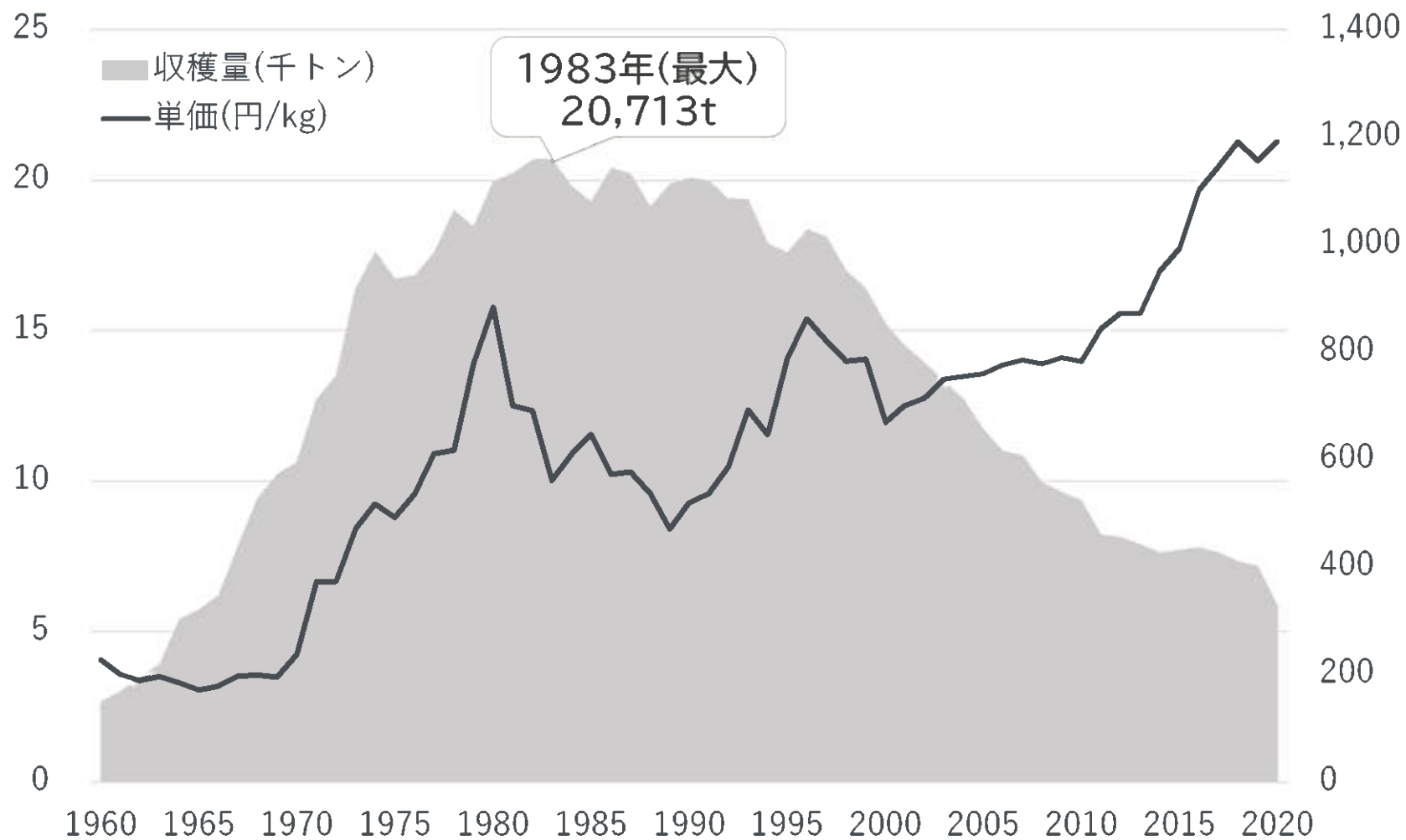
養鱒業とは 2/3

静岡県は生産量日本一だが、淡水ニジマス養殖業(養鱒業)は全国的に斜陽産業である。



養鱒業とは 3/3

マス類全体で生産量は減少しているが、単価は2000年以降、上昇傾向にある。



水産養殖業の抱える地域・社会課題と解決の方向性

国内の水産養殖業(特に海面養殖業)も内外環境の大きな変化に晒されている。

中でも、人材不足は大きく懸念される。

| 地域・社会の課題と詳細内容 | | | 社会的 解決 インパクト可能性 | | 解決の方向性 |
|---------------|----|--|--------------------|---|---|
| 社会 | 資源 | <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動(海水温上昇、異常気象) ・資源管理の限界による天然資源減少 ・エネルギーや飼料の高騰 | 大 | 小 | 要因が大規模かつ複雑であり 個社での解決は困難 (制度改革、資源管理) |
| | 需給 | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模経営体の収益力低下 ・高齢化での生産性低下 ・輸入依存/国内魚介類自給率の低迷 | 中 | 中 | <ul style="list-style-type: none"> ・経営体の統廃合支援 ・産直EC活用 (市場外取引による収益向上) ・国産魚普及の推進 |
| 地域 | 人材 | <ul style="list-style-type: none"> ・養殖経営を改善する人材の不足 ・即戦力となる現場人材の不足 | 中 | 大 | <ul style="list-style-type: none"> ・高度養殖人材の登用/育成 ・教育機関と業界が連携し 実践的カリキュラムの提供 |
| | 技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・先進技術に対する現場理解度の低下 ・養殖魚の付加価値がつけづらい | 中 | 中 | <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも扱いやすい 先進養殖設備の開発・実用化 ・ニーズある養殖魚へのシフト |
| | 資金 | <ul style="list-style-type: none"> ・養殖場の適正な企業価値を評価しづらい ・イニシャルやランニングコストの増加 | 小 | 中 | <ul style="list-style-type: none"> ・養殖場評価事例の蓄積/共有 ・収益計画策定の高度化支援 |

日本の長期的な戦略から見たサーモン養殖

国内サケマス消費量が増加する一方で、アジア諸国の需要も増加しており、いわゆる「買い負け」が発生しており、この状況は更に悪化する可能性がある。

現状のサケマス需給構造（数値は2018年時点）



サケマス養殖業の成長産業化に向けた基本的な考え方



国内サケマス養殖は、国内サーモン需要を補う役割へと転換の兆し!

【参考】外資系養殖場の静岡進出

小山町のノルウェー資本のサーモン陸上養殖場は年間約5,300tを生産する予定である。



Strict bio-security controls and protocols

- Over-pressurized building
- Quarantine and disinfection of all staff, eggs and equipment
- SWAT movement control

Low complexity and simple solutions

- Using natural processes as gravity and sedimentation instead of mechanical solutions like drum filters etc.
- Reduced maintenance and sources of failure
- Also less need for specialized employees and management
- Lower operational risks and fewer sources of failure

Low water exchange

- Efficient treatment design
- Use of denser flocculation to further reduce exchange require ment

Modular design

- The grow out facility consists of individual modules
- Diversifies risk
- Each module has its own water treatment

Larger water buffer

- Total water inside the facility is more than 2x the volume of the fish tanks
- Important buffer in case of emergencies, also increases reaction time to more than 2x

The separator and production tank are designed to hold the growing fish as well as removing the solids from the water. A sediment trap for collecting fish waste solids sits in the center of the production tank.

まちひとしごと戦略の政策評価指標との関連性

今後も成長性がある「養殖」に関するKPIを独立して設け
新規就業者や生産額の発展性を内外にPRしてみてもは如何か？

◆水産王国静岡の持続的発展の推進

水産王国静岡の持続的発展の推進を基本方向として、「生産・流通・消費の好循環を生み出す水産振興対策の推進」、「海・川の恵みの持続的な利用の確保」、「次世代の漁業を担う人・組織づくり」及び「水産資源の資源管理・資源増殖等を図る先端的な研究開発の推進」に取り組む。

| 【重要業績評価指標 (KPI)】 | 基準値 | 現状値 | | 目標値 | コロナの影響 |
|---|--|--|-----------|------------------------|-------------------------|
| | | (2020年) | 基準値 | | |
| 1 経営体当たり漁業生産額 | (2017年) 910万円 | (2020年) 907万円 | 基準値 以下 | 毎年 1,000万円 | |
| 水産イノベーションの新たな取組件数 | - | | | | |
| 水産物の新規流通体制の構築・高付加価値化取組件数 | (2018年度) 7件 | | | | 漁業と養殖業を切り分けて考えるべき！ |
| 漁協漁港食堂集客者数 | (2020年度) 49万人 | | | | |
| 水産物の効果的な資源管理に向けた新たな取組件数 | (2018年度) 3件 | | | | 養殖の発展性を、行政や県民にも理解してほしい！ |
| マダイ・ヒラメ放流尾数及びクエ種苗生産尾数 | (2014~2018年度) マダイ平均79.2万尾 ヒラメ平均21.2万尾 クエ: - | (2020~2021年度) マダイ: 0万尾 ヒラメ: 0万尾 クエ: 0万尾 | | | |
| マリンバイオ等を活用した水産物の高付加価値化や資源管理等に関する新たな技術開発件数 | (2014~2018年度) 累計11件 | (2020~2021年度) 累計5件 | ○ | (2020~2021年度) 累計12件 | |
| 新規漁業就業者数 | (2018年度) 68人 | (2021年度) 62人 | 基準値 以下 | 毎年度 80人 | |
| 漁業高等学園卒業後の漁業就業者数 | (2014~2018年度) 平均14人 | (2021年度) 22人 | ◎ | 毎年度 15人 | |
| 新規漁業士の認定者数 | (2018年度) 6人 | (2021年度) 0人 | ● | 毎年度 4人 | |

まとめ

- 斜陽化していた国内サケマス養殖は、国内サーモン需要を補う役割へと転換し、**再成長の兆し**がある。
- 一方で、外資系の養殖企業も進出しており、大規模養殖の前では、**従来の小規模経営体は太刀打ちできない！**
→座して死を待つのではなく、従来型経営体が有する地域資源(富士山の湧水)を効果的に活用し、県東部地域に集中する**養殖産業を使った地域活性**を図るべきではないか？
- ただし、技術開発や人材不足など課題が多くあることから、産業育成という面でも、**まちひとしごと創生の指標見直しなどの行政支援に加え、県内外から養殖に関する知見を結集し、具体的な動きや成果に繋がれば幸いである。**